

①

可読性をよくする最も効果的な方法を1つ選びなさい。

①周囲の色との色相差を大きくとるべきである。

②周囲の色との明度差を大きくとるべきである。

③周囲の色より冴えた色であるべきである。

④周囲の色の補色を用いるべきである。

【参考】

色相差大

明度差大

冴えた色

補色の色

②

次のA～Cの空欄に下記の語群から適切なものを選びなさい。

赤や橙などの暖色で彩度が高い色は(A)が高い。人目につきやすい色であり、郵便ポストの色のように利用者が気づきやすい色である。また遠くからでも見える色のことを(B)が高いという。(B)の中でも図形の場合などは明視性、文字や数字の場合は可読性という。(B)の高い配色は黄と黒、逆に低い配色は(C)などである。

①色の識別性

②色の視認性

③色の安全性

④色の誘目性

⑤赤や黒

⑥黄と黒

⑦赤や黄

⑧白と黄

③

次のA～Dの空欄に適切なものを記入しなさい。

色の(A)は、対象の色と(B)の色との関係によって決まる。とくに互いの色の(C)差が最も大事である。(D)と黒の配色が最も(A)が高く、踏み切りの色や、児童の通学帽と夜中のアスファルトの配色はそのよい例である。(A)の高い配色は遠くからでも発見しやすい。

①色覚特性

②ユニバーサルデザイン

③三属性

④色覚異常

⑤機能的

⑥情緒的

④

色の誘目性の記述として誤りのものを1つ選びなさい。

①誘目性は、注意を向けていない対象の「発見されやすさ」をいう。

②危険や禁止など、生命に関わる事には、誘目性の高い色を用いる。

③誘目性が高い色には、赤や青の高彩度の色がある。

⑤

色の視認性の記述として誤りのものを1つ選びなさい。

①視認性を高めるには、背景の色との色相差がもっとも必要である。

②案内表示など、公共空間においては視認性の高い色が利用される。

③視認性は、注意を向けて対象を探すときの「発見しやすさ」をいう。

⑥

色の明視性、可読性の記述として誤りのものを1つ選びなさい。

①明視性や可読性は、対象の「意味の理解しやすさ」をいう。

②可読性は文字情報の「読みやすさ」をいう。

③明視性は、明るいところでの視認性のことをいう。

⑦

右に示したサイン(文字と矢印)に対して、看板の地の色はどの色が適しているか①～④から選びなさい。

①

②

③

④

出口

EXIT

→

⑧

A～Dに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

色の役割は大きく2つに分類できる。まず、色には「(A)な効果」があり、その効果で物事をわかりやすくできる。もう1つは「(B)な効果」があり、物事の新たな印象を生み出すことができる。(C)は前者の例で、(D)は後者の例である。

A

①機能的

②情緒的

③感性的

④感覚的

B

①経済的

②情緒的

③機能的

④論理的

C

①読みやすさ

②好ましさ

③楽しさ

④美しさ

D

①読みやすさ

②見やすさ

③好ましさ

④区別しやすさ

⑨

A～Cに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

色のユニバーサルデザインの観点から、誰でも理解できる、わかりやすい色使いが求められる。特に(A)に差異を付けるように心がけるとよい。具体的には青と黒、(B)の組み合わせなどは区別がつきにくいので避けるのが好ましい。

色相・明度・彩度の近い色を使う場合には(C)を用いるのも有効である。

①色相

②グラデーション

③彩度

④黄と白

⑤黄と黒

⑥セパレーション

⑦明度

⑩

A～Cに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

色の見え方は人それぞれで、一様ではない。病気や遺伝、加齢によっても変化する。色の識別に関わるこのような個々の性質を(A)という。例えば、地下鉄路線図の色分けのように、色の(B)な側面が求められる際には特に色覚の多様性に配慮すべきである。これはすべての人にわかりやすく伝わるための色の(C)の典型的な例である。

①色覚特性

②ユニバーサルデザイン

③三属性

④色覚異常

⑤機能的

⑥情緒的

⑪

A～Bに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

水晶体は加齢に伴い(A)する。このことによって波長の短い青い光を多く吸収しやすくなり、ガスの青い光が短く見えたりする。また、水晶体が濁る(B)という眼の病気は、加齢に伴い増加し、70歳代で9割、80歳代でほぼ全員がかかる。そのため、彩度の感度も低下する。

①青変

②黄変

③赤変

④緑内障

⑤白内障

⑫

加齢に伴う色覚特性の変化として誤りのものを選びなさい。

①暗いところで物が見えにくくなる。

②水晶体が少しずつ青みを増していく。

③水晶体が少しずつ黄みを増し濁ってくる(黄変)。

④視野が一部欠損することもある(視野欠損)。

⑤眩しさを強く感じ、彩度の感度が低下することもある。

⑬

遺伝による色覚特性について、正しいものを選びなさい。

①人種による違いはないが、男女の差がある。

②人種による違いはあるが、男女の差はない。

③人種による差もあるが、とりわけ男女の差が大きい。

④日本人男性の200人に1人、0.5%の人が色覚に問題がある。

⑭

色覚特性の説明として誤りのものを選びなさい。

①色覚異常は1型、2型、3型に分類される。

②日本人男性の色覚異常は、ほとんどが3型である。

③1型は赤い光に対する感度が低く、赤が見えにくい。

④2型はM錐体(緑錐体)の働きに問題がある。

15 A～Hに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

19世紀、イギリスの医師ヤングとドイツの生理学・物理学者ヘルムホルツは、眼の中に（ A ）種類の光を感じる視細胞があり、その反応の組み合わせで色が知覚されると考えた。（ A ）種類の光は（ B ）の光にそれぞれ反応し、その情報が脳に伝達され、色が知覚されるのである。

たとえば、赤を見たときは（ C ）の視細胞が強く反応し、緑を見たときは（ D ）の視細胞が強く反応する。そして黄を見たときは（ E ）の視細胞が強く反応する。また、（ F ）を見たときはすべての視細胞が強く反応するというのである。

これらは（ G ）の考えに基づいており、提唱者の名からヤング-ヘルムホルツの（ H ）説と呼ばれている。

A	①2	②3	③4
B	①H・S・B	②C・M・Y・K	③R・G・B
C	①R	②G	③B
D	①R	②G	③B
E	①RとG	②RとB	③GとB
F	①真っ赤	②白	③黒
G	①減法混色	②加法混色	③色順応
H	①反対色	②四原色	③三原色

138

16 A～Fに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

赤をしばらく見た後に、ぼんやりと青緑が見えるという（ A ）の現象は、ヤング-ヘルムホルツの三原色では説明することはできない。このことから、ドイツの生理学者で心理学者のヘリングは、色の知覚について（ A ）からヒントを得た。

彼は基本的な色知覚として、赤と（ B ）、黄と（ C ）、白と（ D ）の3組の（ E ）に反応する物質があると考えた。これがヘリングの（ E ）説である。別名を（ F ）説という。

A	①対照色	②補色残像	③類似色
B	①橙	②黄	③緑
C	①青	②橙	③緑
D	①赤	②灰色	③黒
E	①反対色	②類似色	③三原色
F	①三原色	②四原色	③補色

140

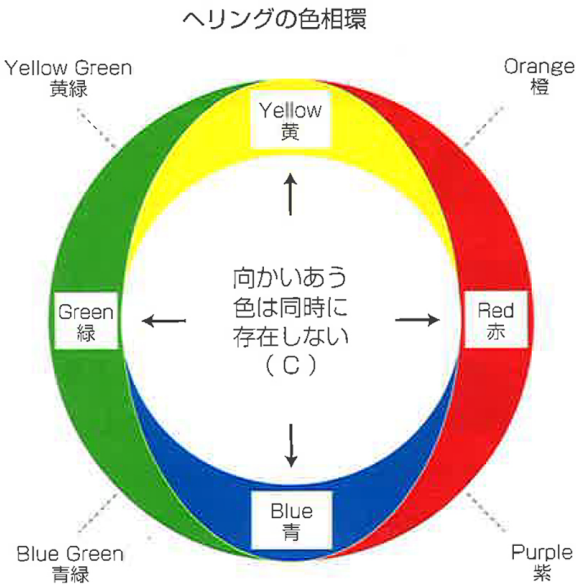
17 A～Fに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

橙の中に、私たちは赤と黄を感じることができるが、赤の中には（ A ）を感じることはない。同時に黄の中に（ B ）を感じることもない。このことを示したのが、右ページのヘリングの色相環である。

この色相環は、「赤と（ A ）」あるいは「黄と（ B ）」は同時に存在しないので向かいあう位置にある。加えて、「白と黒」の対を含めた3組の（ C ）をヘリングは色覚の仕組みの基本だと考えた。そのため、この色覚説のことを（ D ）の（ C ）説という。

また、赤と（ A ）と、黄と（ B ）の有彩色の4色を軸に考えたことから（ E ）説と呼ばれることもある。

黒と白は（ F ）の感覚を起こさせるものである。



A	①緑	②橙	③青
B	①赤	②緑	③青
C	①同系色	②類似色	③反対色
D	①ヘリング	②ヘルムホルツ	③マンセル
E	①三原色	②四原色	③有彩色
F	①色み	②輝度	③明るさ

18 A～Eに適切な語句を語群から選び、文章を完成させなさい。

外界の「光」が眼の中に入ってきて、脳で「色」として知覚される。この「光から色へ」の過程を研究したのが（ A ）である。まず眼の（ B ）にある視細胞の段階では、ヤングとヘルムホルツが提唱した（ C ）の仕組みがあり、それ以降の段階では、ヘリングの（ D ）の仕組みがある。今は、その両方の説を取り入れた（ E ）の考えが採用されている。

A	①色覚特性	②色覚説	③色覚異常
B	①網膜	②水晶体	③強膜
C	①三色説	②反対色説	③段階説
D	①三色説	②反対色説	③段階説
E	①三色説	②反対色説	③段階説

19 A～Cに適切な色覚説を語群から選びなさい。

- ・カラーモニタの原理は（ A ）を裏付けている。
- ・補色残像は（ B ）を裏付けている。
- ・赤みの緑や、青みの黄が存在しないことは（ C ）から説明できる。

①ヤング-ヘルムホルツの三色説（三原色説）
②ヘリングの反対色説（四原色説）